

---

# ポケモン旅遊歩

ウルオイ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ポケモン旅遊歩

### 【Nコード】

N4064U

### 【作者名】

ウルオイ

### 【あらすじ】

見た感じ普通の青年ウルオイ（普通じゃない）がテンプレのごとくポケモンの世界に飛ばされた？

しかもその世界のポケモンは全て擬人化してる？

擬人化ポケモンの世界に飛ばされた意味とは？

妄想とご都合主義満載の冒険記？が始まる？

## ブログ（前書き）

さて…始めました…

ひとまず書き溜め分を投稿していきませんが…

このサイトの操作が分かりにくい？  
慣れるまでご了承ください？

## プロローグ

（プロローグ）

？：我…その身朽ちるとも…その魂永遠に朽ちん…我…この世を捨て…異なる世への路を開かん…共に路を歩む者よ…振り返ることなかれ…振り返れば…夢幻に消え…目が覚めん

ウルオイ：固つたくるし…本だな…表紙買いたのが不味かったか…

布団に寝っ転がって近くの古本屋に埋もれてた魔道書っぽい表紙の本を見ているのが今作の主人公：ウルオイ…大学を中退しやりたいことも見つからずフリーターを続ける今年21歳のどこにでもいるような青年である…しかしこの本との出逢いが彼の運命を少しだけ変えることになるとは…彼は知らない

3

ウルオイ：はあ…なんで魔道書っぽい表紙だからって中身見ないでいきなり買つかね…

まあ魔法に頼りたい気持ちはわからんでもないが…なあ……はあ

ウルオイは本を閉じまた深くため息をついた…

ウルオイ……独り暮らして独り言と溜め息が増えるのね……まあいいや…明日はバイト休みだしゲームゲームと…

ウルオイはゲームをあさっている

ウルオイ：あつ…ポケモンの最新版買ってそんままだ…よし！やつ  
てみるか！

\*\*\*\*\*

ウルオイ：うおっ！…もう3時だと？…流石ポケモンだな…面白  
つ…くつあ~~~~つ…やべ自覚したら眠くなった…寝ますか…

ウルオイの部屋の電気がけされ

彼の運命の輪が動き出す…ゆっくりと

## ブログ（後書き）

ひとまずブログまで

ちゃんと投稿出来てるか心配だ…？

ありきたりなスタートだが…よろしくお願いします？

「目覚めたら異世界でした」(前書き)

一話投稿？

投稿の仕方が少しわかった気がする…かも？

短いですがよろしく願います？

早速メインヒロイン登場？

「目覚めたら異世界でした」

? : お……おき……ね……き……ねえ起きて！  
ポ！

ウルオイ：……（ん？なんか熱い？そして焦げ臭い…… 火事！？）  
うわ！？

ウルオイが凄いスピードで上体を起こす…… 火事場のなんとやら

? : ひゃ！？……びっくりした……えっと……大丈夫……ですか？

ウルオイとぶつかりそうになった少女が小首を傾げる

ウルオイ：えっ？……あっ……はい？

? : ……どっ……どうしょく火力が強すぎたかな……えっと……こんなとき  
は

今度は頭を抱えて考えてる

ウルオイ：何で僕の部屋に女の子が……ってここは……どこだ！？

寝ていたはずの布団はなく……固い地面があった……

ウルオイ：……夢？……なら寝直し寝直し……

? : え！？……ちよつと寝ないでください！……お？き……て……？

少女が地面に寝っ転がるウルオイをゆさぶる

ウルオイ：うゝん…後5〜6時間…  
？：長いです！も?!っ火の粉!!  
ポ！ポ！

ウルオイ：あつち?!?!?

ウルオイはしばらく固い地面を転がった

ウルオイ：…つまりここは夢じゃなく現実か

？：そうですね…目は覚めましたか？

ウルオイ：お陰様で…（しかし…よく見ると可愛い子だな…綺麗な長い赤毛…髪の色と同じ色のワンピース…そして同じ色のしっぽ…しっぽ?）

少女のワンピースからは鮮やかな赤いしっぽが顔を出していた…しかも先が燃えてる

ウルオイ：やはり夢か〜お休み〜

？：え?!?!?ちょっと寝ないで?!

ウルオイ：ええい!しつこい夢だな!…ならそのしっぽはなんだ!

？：え?しっぽ?…だって私ヒトカゲだもん…しっぽくらいあるよ?

ウルオイ：ヒトカゲ？…ヒトカゲはポケモンだろ？

ヒトカゲ：はい！私はポケモンのヒトカゲです！

ウルオイ：……………お休み？

ヒトカゲ：寝？な？い？で？？

ドタバタ繰り返す彼らの傍らには鈍い光を放つあの魔道書が落ちていた

「赤い少女」(前書き)

前回の後書きは失敗したので削除しました

すみません？

では一話をどうぞ？

「赤い少女」

ウルオイ：つまり僕は現実世界からポケモンの世界に来てしまった  
…と？

ヒトカゲ：えつと…私にはよくわかりませんが…

ウルオイ：しかし僕の世界にポケモンはいないしなあ

ヒトカゲ：ん〜…博士ならわかるかなあ？

ウルオイ：博士？

ヒトカゲ：はい！サザナギ博士です！…凄いですよ〜

ウルオイ：サザナギ…？（そんな名前の博士いたかな？）

ヒトカゲ：うん！そうと決まれば研究所に行きましょう！

ヒトカゲがウルオイの腕を引っ張る

ウルオイ：ちよっ…引っ張らないで…自分で歩くから！

ヒトカゲ：は？や？く？！

ウルオイ：君…人の話は聴きなさいよ…まあいいけど…あっ僕の  
名前はウルオイって言うんだ…君は？

ヒトカゲ：ヒトカゲです！…さあ行きましょう！

ウルオイ：おーい…（ニツクネームはまだ無いのね）

ウルオイはヒトカゲに連れられて研究所に向かった

ヒトカゲ：ここがヒナタウンです！…タウンって言うてもあるのはポケモン研究所と何軒かの住宅があるだけですけど…とってもしいところですよ！

ウルオイの目の前にこじんまりした集落が広がる…

ウルオイ：（うわ…なんだろう…田舎のじいちゃん家に帰ってきたみたいに……凄く…懐かしい）本当いいところだね…

ヒトカゲ：はい！…私ここが大好きです…ウルオイさんにも気に入ってもらえて嬉しいです…えへへ？

ヒトカゲがにっこり笑う

ウルオイ：そうか…（この子…凄くいい子だな…ってかその笑顔はヤバイ…可愛い過ぎる！…僕は口コンじゃないぞ！）

ヒトカゲ：ウルオイさん？…大丈夫ですか？

ウルオイ：…うん大丈夫！…大丈夫…さあて研究所はーつと…

ヒトカゲ：研究所はあの丘のてっぺんにあるのがそうですよ？

集落の奥に小高い丘がありそこに建物が建っている

そこまではいい…しかしその上空で2つの物体が炎や雷を撒き散らしながらぶつかり合っている

ウルオイ：ヒトカゲさん？…あれは何でしょーか…

ヒトカゲ：あゝ…お姉ちゃん達が手合わせしてるだけですよ

ウルオイ：端から見たら死合いしてるようにしか見えませんが…

ヒトカゲいわくお姉ちゃん達がぶつかる…衝撃波が離れたここまですく

ヒトカゲ：いつものことですよ

ウルオイ：（いつもののか…ああ…懐かしさはどこへ）

ヒトカゲ：さて…いつまでも突っ立ってないで研究所に行きましょうか！

ウルオイ：そうだね…（流れ弾が来ませんように…とぼっちり受けませんように）

ウルオイとヒトカゲは危なっかしい研究所へと向かった

「赤い少女」(後書き)

一話投稿完了

今回は後書きミスらないように気を付けよ？

ヒナタタウンはゲームでいうマサラタウンの様にのどかな田舎です

(炎や雷飛び交ってましたが?)

さて危ない2人の正体とは?

次回お楽しみに?

「上手に焼けました〜…からの研究所への道」(前書き)

…またミスった？

大目に見てね？てへ？(キモいわ？)

気を取り直して一話の投稿？

んじゃぶじぶじ？

「上手に焼けました〜からの研究所への道」

結論から言うと焼かれました…お姉さんのひとりのリザードンさんの流れ弾に…

ウルオイ：（本日3回目…よく焼かれるなあ…僕は肉じゃないぞ！）

ヒトカゲ：だ…大丈夫ですか？

リザードン：大丈夫かい？

肉焼き作業を見て二人が降りてきた…

カイリユウ：すまない…この時間に研究所にくる人がいるとは思わなかった…ほら…リザも謝れ

リザードン：ごめんなー…楽しすぎで見えなかったわ！

二人が頭を下げる

ウルオイ：いえいえ！もう大丈夫ですから！ヒトカゲからやけど直してもらってだいぶ楽になりましたし…

カイリユウ：そうか…しかし用心の為だ…早く研究所に行こう

リザードン：だね！…練習も終わったし帰ってご飯だ！

カイリユウ：その前に彼の治療が先だ…後リザの炎のせいだからリザが手当てしろ

リザードン：マジか…

カイリユール：マジだ…

ウルオイ：あのー…ホントにたいした事ないので大丈夫ですよ（リザードンさんに手当てされるのが怖いんじゃないぞ！…ほんとだぞ！）

カイリユール：リザ…嫌われたな…

リザードン：マジか！？…ショックだぜ…

ウルオイ：ち…違いますよ！

ヒトカゲ：三人とも早くー…ウルオイさんもう少しですよ…後お姉ちゃん達もあんまりウルオイさんいじめないよー！

気付くとヒトカゲは上り坂の少し先の方にいる…元気だなあ…

カイリユール：おっ…姫も可愛く嫉妬する年頃になったか…

リザードン：大きくなったもんだねえ…もう姉離れか…お姉ちゃん寂しい！

ヒトカゲ：もう！なにいつてるの！

さっきまで離れたところにいたヒトカゲが2人に突進する

カイリユール：冗談だ？

リザードン：だ〜？

ヒトカゲ：も〜？

ウルオイ：（凄く…仲良しだな〜…兄弟か…あいつは今頃何してるかな…仲悪くはなかったが…最近あんまり話してなかったなあ）

ヒトカゲ：ウルオイさん！…着きましたよ〜！…ウルオイさん？

ウルオイ：…うん？…おお！着いたか…はあ〜結構登ったなあ

カイリユウ：ふむ…たまには歩いてのぼるのもいいな…リザ…千本ダッシュでもしてみるか？

リザードン：うん！断る！…でも歩くのはいいかもな〜

カイリユウ：負けるのが怖いか？？

リザードン：泣かせちやる？

カイリユウ：ならば五本ダッシュで二本先取といこう…どうだ？

リザードン：いいともー…ヒトちゃん！勝った方におかず一品追加よろしく！

ヒトカゲ：は〜い？…早めに帰って来てくださいね〜

その声を合図に2人はダッシュで坂下っていく

カイリユール：下りも…

リザードン：勝つ負？

ヒトカゲ：行ってらっしゃい？

ウルオイ：（スゲー…もう見えない…流石最終進化…スタミナがちがう）

ヒトカゲ：さて…お姉ちゃん達も行きましたし博士を紹介しますね…どうぞ中へ

ウルオイはヒトカゲに導かれ研究所へと入って行った

「上手に焼けました〜からの研究所への道」(後書き)

今回はミスなさそう???

2人のお姉ちゃんの正体はリザードンとカイリユウでした?

リザードンは元気な姉御

カイリユウは少し古風ないたずらっ子的なイメージです

さてさて研究所の中で待ち受ける博士とは?

次回楽しみに〜?

「博士とドリーム」(前書き)

アクセス数が190だと?…

まさかこんなにも見てくれる人がいるとは…

見てくれた人?ありがとうございます?

よゝし?

顔晴る?

んじゅんじゅん?

## 「博士とドリーム」

中に入ると…まず目に飛び込んできたのはよくわからないたくさん  
の機械…そしてその奥でパソコンとにらめっこしている女性…

ウルオイ：（この人がサザナギ…博士か？）

ヒトカゲ：博士…ただいま？お客様連れてきましたー？

ヒトカゲの声に反応して女性が回転椅子を回しこちらを向く

サザナギ：あらあら…おかえりなさい…お客様はこの子…？

ヒトカゲ：はい！…ウルオイさんです？？

ウルオイ：ウルオイです…こんにちは…（なんつーか…ほんわかした人だな）

サザナギ博士がほにゃっとした笑顔でウルオイを見つめる

サザナギ：は…い…こんにちは……ヒーちゃんはご飯の準備してきて…わたしお腹空いちやっただー？

ヒトカゲ：はい…少し待っていてください…ウルオイさんも博士と一緒にゆっくりしておいてくださいねー？

ヒトカゲが別の部屋に消える

サザナギ：ウルオイさんだったわね…こっちのソファーにどうぞ？

博士に進められ対面してソファアに座る

サザナギ：まずは自己紹介からしましょうか〜わたしはサザナギって言います、この…ココナシ地方でポケモンの研究と調査をします

ウルオイ：ココナシ？…聞いたことないな…

サザナギ：あーそれはしかたないですよ〜…ここはどの地方からも離れた場所にありますから〜…でもちゃんとポケモンセンターやジムもあるんですよ〜？

ウルオイ：へー…でもここにいるポケモンはカントーの種ですよね？…カントーが一番近いんですか？

サザナギ：ふふ〜？…そう思うよね〜…でもひとつ間違〜いこの地方にいるのはカントー種だけじゃないの〜？

ウルオイ：はい？…どうゆうことですか？

サザナギ：この地方には全地方全種のポケモンが生息しているの〜…あつ伝説や幻系はさすがにいないけど〜…この地方の伝説のポケモンはまだ発見されていないのよね〜伝承はあるのにね〜？

サザナギ博士はまたほにゃつとした笑顔をうかべながら言った

ウルオイ：全地方の全種類…ですか？そんな！？（普通は他の地方の種は居ても少数…いやゲームで考えるな…となるとここは…）

サザナギ：不思議でしょ〜だから研究しに来たの〜：そういえばこの地方は研究者から別名パンゲア地方つても言われてるのよ〜：興味ある人はあまりいないけどね〜？

ウルオイ：パンゲア：超大陸〜（やっぱりゲームには存在しない土地〜とゆうかパラレルワールド？〜あ？こんがらがってきた?!？）

サザナギ：あら〜大丈夫〜？〜ちょっと難しかったかしら？〜そうだからあなたの用件はなあに？

ウルオイ：（後で整理〜今はこつちだ）えっと〜僕の名前は滝乃ウルオイ潤ウルオイっていいます〜用件ってゆうか相談ってゆうか〜ひとまず僕がここに居る訳を話します

ウルオイは自分に起きた全てをサザナギ博士に話した

サザナギ：別の〜世界から??

サザナギ博士がびっくり顔になつて〜そりゃそうだな

ウルオイ：信じられませんか？

サザナギ：ん〜：不可能ではないの〜：かな??

意外な言葉が返ってきた

ウルオイ：え?〜：不可能じゃない?

サザナギ：だって時を越えるポケモンもいるし〜次元を行き来するのだから〜：おかしくはない

ウルオイ：確かに…？

サザナギ：しかもあなたが持ってきたこの本…ここに書かれているのはこの地方に残る伝承に酷似している…面白い…実に面白い？

途中から博士は自分の世界に入っていく

ウルオイ：この人…こんなキャラだったか…？

ヒトカゲ：たまにあるんですよー自分の世界に入ってしまうこと？

ウルオイ：うわー！？…いきなり後ろから出てこないですよ…びっくりした〜？

いつの間にウルオイの背後にヒトカゲがエプロンにおたま姿で立っていた…

ウルオイ：（…ドリーム…）

ヒトカゲ：あっ…ごめんなさい…？

今度はシヨボーンっとしている

ウルオイ：可愛いから許す？

ヒトカゲ：へっ？…かつ可愛いってそんなノノノ…えーっ…ご飯…！…ご飯出来ましたから早く食べましょっ？？

ヒトカゲが真っ赤になってあたふたしている

ウルオイ：ヒト…

ヒトカゲ：博士！…ご飯ですよ？／／／！

サザナギ：ぶつぶつ…あら？ご飯？…食べる？

ウルオイ：あの？

ヒトカゲ：お姉ちゃん達も帰って来てますし！ほら早く早く／／／！

サザナギ：ヒーちゃん？そんなに押さなくても歩けるわよ？？

ヒトカゲがサザナギ博士の背中を押して別の部屋へ消えていく

ウルオイ：しまった心の声が漏れた…でもあれは反則だろ…

ウルオイが呟くとドアからヒトカゲが赤い顔だけ出して

ヒトカゲ：ウルオイさんも…どっ…どうぞ／／／！

それだけ言うとヒュッと引っ込んだ

ウルオイ…（今なら萌えとゆづのがなにか説明できる…あれだ…あれが萌えだ…）僕はロリコンか？？

そんなことを呟きウルオイもヒトカゲの後を追った

「博士とドリーム」(後書き)

「裸エプロンは男の夢」と言うが…  
可愛い女の子がフリフリエプロン+オタマ装備+恥ずかしそうなのは  
にかみ笑み〓良い？

さて博士は女性にしました

BWでも女性ですからね？

しかしこっちはリイル先生特性付き(笑)

さてさてでは次回をお楽しみに？

今日中に投稿するかも？

「旅立ち命令？」（前書き）

アクセス数が三百を越えた…しかもお気に入り登録してくれた人もいた

ありがとうございます？

これからもゆっくりのんびり投稿します？

さてヒトカゲ追っかけて別の部屋へ

ウルオイを待ち受けるのは？

んじゃぶじゃぶ？

「旅立ち命令？」

ウルオイが別の部屋に入る

カイリユー：ウルオイ君：姫がなんだか愉快なんだが…何かあったのかい？？

すでに食卓に座っていたカイリユーがニヤニヤしながら言った

ヒトカゲ：っ？…何も無いよ？

ウルオイ：エプロン姿があまりにも可愛いかったので…可愛いと言っただけですよ

ウルオイもニヤニヤしながら食卓に付く

ヒトカゲ：？……う？…／／／

ヒトカゲが真っ赤になってもじもじする

リザードン：おお～…ヒトちゃんが凄く愛くるしい？…部屋にお持ち帰りしたい…

カイリユー：まて…持ち帰るのはワシだ…

リザードン：勝負は私が勝ったから私の？

カイリユー：いや勝ったのはワシだ

ヒトカゲ：ちよつ…ちよつと？放して？？

ヒトカゲが両側から抱きつかれあたふたする

ウルオイ：（可愛いな？…）

サザナギ：はいはい…2人とも…ヒーちゃんが大好きなのはわかったから…放してあげなさい？

カイリユー・リザードン：はい？

ヒトカゲ：はう…疲れた…？

サザナギ博士の鶴の一声によりようやくお姉ちゃんズハグから解放される

サザナギ：さて…じゃ…ご飯にしましょ…か…いただきます？

三人：いただきます？

ヒトカゲの料理はとても美味しかった…いいお嫁さんになれるな…

ウルオイ：美味しい…ヒトカゲ料理上手だね？

ヒトカゲ：本当ですか？…よかったです？

カイリユー：なるほど…王子様は胃袋で落としちゃおう作戦か…？

リザードン：あ…だからこんなに豪華料理なのね…？

ヒトカゲ：王子？／／／……つて！違つ今日はお客様が来たから！

カイリユウ：考えたね？

リザードン：考えた〜？

ヒトカゲ：も?!…2人にはデザートあげない??

カイリユウ：何？姫よ…殺生な…すまぬ…？

リザードン：ヒトちゃんごめんなさ〜い？

ヒトカゲ：よろしい…つてウルオイさん!？何ニヤニヤしてるんですか???

ウルオイ：おうっ!…いや…ヒトカゲ可愛いなあって思って?

ヒトカゲ：つ??/?/?/?/?/?/?/?/?/?/?

カイリユウ：…この差はなんだろう???

リザードン：ヒトちゃんの愛を独り占め?…許すまじ…?

とてもドタバタした食事だが…とても暖かい食事でもあった

サザナギ：さて…そろそろ本題に入っっていいかしら〜?

いままで笑顔で食卓を見守っていたサザナギ博士が言った

ウルオイ：…本題?

サザナギ：そ〜…結論から言うと…わたしはあなたを送り返すことはできない

ウルオイ：…

サザナギ：でも協力は出来る…まずは情報提供…この世界を知らないあなたには必要でしょう？

ウルオイ：はい…

サザナギ：次に各種機関に協力申請…わたしがあなたを紹介しておけば旅も楽になるでしょう？

ウルオイ：はい…って旅？

サザナギ：そして最後の協力…旅のパートナーとしてヒトカゲを連れていけ

ヒトカゲ：えっ！私？

サザナギ：お前は以前から旅に出たかっただろう…しかし先日の人トレーナー2人から選ばれず研究所に残った…しかし今日ウルオイが来た伝承の本持って…偶然でかたずけるにはどうもな…

ヒトカゲ：でっでも…ウルオイさんの気持ちは…

ウルオイ：旅に出ます？

迷いはなかった…とゆうか願ったり叶ったりだ…ヒトカゲと旅に出

れる…冒険が出来る…元の世界では決して出来ない体験が出来る…  
ワクワクが止まらない？

ウルオイ：ヒトカゲ：僕は旅に出てこの世界に来た意味を知りたい  
…たくさんの冒険がしたい…ついて来てくれるかい？？

リザードン：おゝ大胆プロポーズ…？（小声）

カイリユウ：し…？馬に蹴られるぞ？（小声）

ヒトカゲ：…私で…いいんですか？

ウルオイ：違うな…君がいいんだ？

カイリユウ：キュン？

リザードン：…ときめくな？！（小声）

ヒトカゲ：つ…？…嬉しいです…よろしいお願いします／／！  
（花が咲いたような笑顔）

リザードン：抱きしめたい？？

カイリユウ：うむ！抱きしめよう？？

サザナギ：決まりだな…今日はゆっくり休むといい……さ…とわ  
たしはこの本の解読でもしようかな…リザ…カイ…手伝え…？

リザードン…マジ…？

カイリユー：諦める？…逃れなれない

サザナギ：そうそう…ヒトカゲがいいならニックネームをつけてみたらどうだ？…じゃあ行くわよ〜2人とも〜？

リザ・カイ：お〜？

サザナギ博士とお姉ちゃんズが研究室へ消える

ウルオイ：（わ〜お…二人つきりにしないでくれ…？）

ヒトカゲ：ウルオイさん…？

ウルオイ：（わ〜お…期待込めた目で見つめないで？！）……あかり…

ヒトカゲ：えっ？

ウルオイ：あかり…君はいろんな人に灯りを笑顔をつけることが出来る…だから…あかり

ヒトカゲ：…

ウルオイ：あれ？…嫌だった？（クサ過ぎたか？）

ヒトカゲ：嬉しい…です！…本当に嬉しい…私の名前…私だけの…  
ありがとうございます？？

ヒトカゲが今日最高の笑顔を見せた

ウルオイ…：…ああ！…：…これからよろしくな！…：…あかり？？

あかり…：はい？

そうして彼らの旅が始まりを迎えた…：…またひとつ運命の歯車が音がした…：…

「旅立ち命令？」（後書き）

投稿完了？

ヒトカゲはあかりと命名

ゲームでもヒトカゲはこの名前を使っています？

さて旅立つことになったウルオイ達

さてさてこれからどんな物語が始まるのでしょうか

次回お楽しみに？

「夜会話」(前書き)

通勤中に更新？

旅立ち前の夜会話

んじゃどうぞ？

「夜会話」

研究所の皆が寝静まった頃

ウルオイ：……ふう

ウルオイがなんだか眠れず外に出ていた

ウルオイ：やべ〜…ワクワクで寝れない

サザナギ：出来るだけ休んでおいた方がいいわよ〜旅は大変だから〜？

ウルオイの後ろにいきなりサザナギ博士があらわれる

ウルオイ：っ？…びっくりした？…博士…いきなり後ろから脅かさないでください…？

サザナギ：ふふっ？…まだまだですね〜新人くん？…旅ではもっと驚くようなことや楽しいこと…悲しいこと…たくさん…本当たくさんあるわ…

サザナギ博士が少し遠い目をする

ウルオイ：博士…

サザナギ：クスッ… はなむけの言葉よ…ポケモン博士しての…ね？

ウルオイ：ありがとう……ごいませす！

サザナギ：うん？…じゃあ…これはヒーちゃん…あつ…あーちゃん  
かしらね？…彼女の育ての母親として…あの子はいろいろ大変だと  
思うけどよろしくね？

サザナギ博士は軽い 口調だが…あかりに対する大きな愛情と真剣  
さが伝わってきた

ウルオイ：はい…共に助け合って…進んで行きます

サザナギ：あら？…なんだか…お嬢さんをお嫁に下さいみたいね？

ウルオイ：へっ？

サザナギ：ふふっ…旅をして疲れたり…困った時はまたいらっしや  
い…もうあなたも…わたしの家族なんだから…ね？

サザナギ博士がほにやっとならう

ウルオイ：（なんか爆弾発言されたような？…まあ…いいか？）わ  
かりました…うん！…スッキリしたんで寝ます…ようお休みなさい！

ウルオイがサザナギ博士に微笑み研究所に入って行った

サザナギ…ウルオイくん…わたしの大切な娘をどうかよろしくお  
願いします…あなたならあの子を救えるかもしれない…どうか…あ  
の子を救ってあげて…

サザナギ博士がもう一度遠い目をした

旅立ち前の夜

真なる愛と真なる願い

闇夜に溶けて星の輝きとならん

く名無しの本：序章く

「夜会話」(後書き)

さてさてやっと2人が旅立ちますな

しかし次回は人物紹介をしたいと思えます？

では次回お楽しみに

## 人物紹介（前書き）

今回は人物紹介にしました

新しいキャラが出て一段落したら

こういった話をいれて行きます

んじゃぶんど？

## 人物紹介

ウルオイ：今作の主人公 現代世界から擬人化したポケモン世界に飛ばされた ポケモンゲームは廃人の数歩手前のレベルの為知識は豊富 以前より魔法が使いたいや異世界行って冒険したいなどの願望があり 今の状況を楽しんでいる

性格：のんびりやと言ってるが わりと仕切りやでリーダー気質 仲間や家族思いで愛情が深い どちらかといえばSでよく愛のある 弄りをする（照れる姿が好き） 情にもろく困ってる人はほっとけ ずよく騒ぎに巻き込まれる 人の心を傷つけることをもっとも嫌い 傷つける人には容赦がない 優柔不断

特徴・特技：高速思考 恐ろしい笑顔（背後に般若持ち） 痩せの大食い 料理（普通レベル）

あかり：今作のヒロイン ウルオイがポケモン世界に来て初めて出逢ったヒトカゲ ウルオイいわく美少女 暗い過去を持っているよ うだが周りには気付かれないほど押し殺している（思い出さないように忘れている） 以前から冒険に出たいと思っていたのとウルオイが気に入ったため一緒に旅に出る

性格：ほんわかした子 テレやで可愛いと褒められるだけで真っ赤になる ウブでピユアっ子 自分より他人と自己犠牲が強い 少し人の話を聞かない頑固者 家族を愛し傷つける者に容赦は無い

特徴・特技：料理（鉄人レベル） 可愛い笑顔（背後に華が咲く） よく照れて真っ赤になる

カイリユウ…研究所の年長者組の1人 少ししゃべり方が古風 頭  
はいいが主にイタズラ（相手の許すギリギリライン）の為に使う  
戦闘にも強くよくリザードンと訓練してるため研究所が襲われた事  
はない 研究所のポケモンの中でも一番年上で責任感強い ウル  
オイいわくクール美人 サザナギ博士のパーティーだったらしくあ  
かりによく旅の話をしていた ウルオイの愛ある弄りの同志

性格…楽しいこと面白いこと好き 戦うのも好き 家族愛が深い

特徴・特技…愛のある弄り 調子にのるとポ力をやる 料理は劇薬  
に変えるレベル しっぱとサザナギ博士が弱点 お酒を飲むと甘え  
ん坊になる（サザナギ博士談）らしい

リザードン…研究所年長者のもう1人 ウルオイに三回目のやけど  
を負わせた人 常に明るく楽しくでカイリユウの良き相棒 ウルオ  
イいわく明るいツインテール美人 研究所には孤児として連れてこ  
られたがあまり気にしてない 研究所のムードメーカー

性格…ハイテンションな姉御 可愛いものに目がなくよく抱きつく  
姉御口調だか女の子っぽく料理の腕はあかりの次点 面倒見がよ  
く研究所の赤ちゃんポケモンの面倒をよく見ている

特技・特徴…不幸を笑いでぶっ飛ばす 料理（達人レベル） 子ど  
もの相手 可愛いものセンサー

サザナギ博士…ココナシ地方担当の女性博士 普段はのんびりした  
人だが研究に入り込むと性格が変わる ヒナタタウンのポケモン研

究所でポケモン研究や孤児ポケモンの受け入れなどやってる偉い人  
ウルオイいわく和風が似合う美少女… あかりやリザードンの育  
ての親

性格：普通のんびりたまにガツガツ 素がまったくわからない 人  
一倍愛情が深い（研究所ないナンバーワン） 怒ると恐ろしい…ら  
しい

特徴・特技 研究 愛情表現 ほにゃっとした笑顔 おしおき

## 人物紹介（後書き）

ひとまずここまで？

ウルオイ廃人一歩出前

性格や特性、種族値はそれなりに厳選するが

努力値メンドイ為

自由に育てる

みたいな感じですね

次回は『旅立ちの朝』

お楽しみに？

「旅立ちの朝…そして遭遇」(前書き)

さて今回から旅立ち編

んじやんじやん？

「旅立ちの朝…そして遭遇」

旅立ちの朝が来た

あかり：ウルオイさん！…起きてください！…朝ですよ？

ウルオイ：（あかりの声…もう朝か…）ああ…おはよっ！？

ウルオイが起き上がるとまたしてもエプロンにおたまたま装備のあかりがいた

ウルオイ：…何気に…お気に入り？

あかり：エプロンですか？…はい！…リユー姉からのプレゼントですから！

ウルオイ：なるほど…（カイリユーさん…グツジヨブ！）やっぱり似合ってるね

あかり：そっそうですか…ありがとっございます

あかりが嬉しそうにもじもじする

ウルオイ：…（可愛い…可愛い…可愛い…）

カイリユー：おーい…いつまでラブコメっておるのだ？？

リザードン…のだー？？

カイリユーとリザードンがドアの影からニヤニヤしながらこっちを見ている

あかり：？…ちっ違！…もう！お姉ちゃん／／！

あかりがお姉ちゃんズに突進する

ウルオイ：（平和だなあ）

そして賑やかな食事を終え…旅立ちの時がやってきた

リザードン：忘れ物は無いかい？…お財布持った？…寝袋は持った？…えつと…他にはー？

あかり：大丈夫だよ！…ありがとうリザ姉…？

リザードンがあかりに抱きつく

リザードン：うー…辛い時は帰ってくるんだよ？…ちゃんと連絡頂戴ね？？

あかり：りっりザ姉…分かったから？

カイリユー：こらリザ…姫ももう子どもじゃないし…放してやらんと旅に出られん？

リザードン：リユーは心配じゃないのか？！

カイリユー：心配で胸が張り裂けそうだ？…だからワシも抱きつく？！

あかり：ちよっ…ちよっとー！（嬉しそうに微笑んでる）？

ウルオイ：（良い家族だな…？）

サザナギ：まったくあの子達つたら？

あかり達を見ながらサザナギ博士が母親の顔で微笑む

ウルオイ：あつ服…貸していただいてありがとうございます？

サザナギ：いいのよー寝巻きで旅には出れないものね？

ウルオイ：ですね…？

サザナギ：あと貸したんじゃないの？言ったでしょー

あなたは家族…いっぱい汚してまたいらっしやい？

ウルオイ：！…はい！…帰って来ます？

サザナギ：よろしい…ほくら…二人ともあ〜ちゃん放しなさい？

リザードン：はーい…元気だね？

カイリユー…うむ…楽しんでこい！

あかり…うん？！

サザナギ…あ〜ちゃん…こっちに

あかり：はい？…何ですか？

あかりがサザナギ博士のそばに行く…すると博士はポケットから青いネックレスを取り出し…あかりの首にかけてあげる

あかり：これは…

サザナギ：お守りよ…気を付けてね？

そう言つとあかりをしっかりと抱きしめる

あかり：うん…行つて来ます！…「お母さん」？！

サザナギ：？…行つてらっしゃい！

あかりとサザナギが離れ…あかりはウルオイのそばに…博士はカイリユー達のそばに

ウルオイ：んじゃ…行つてきます？！

あかり：行つて来ます？！

カイリユー：いつてらっしゃい…達者でなー！

リザードン：いつでらっしゃい？

サザナギ：あらあら…行つてらっしゃい…わたしの子ども達…？

こうして二人の旅が今始まった…大きな期待と不安を胸に二人は研究所を後にした

\*\*\*\*\*

ウルオイとあかりは二人が出逢った森を歩く

ウルオイ：思ってたより深い森だな…次の町までどれくらいだ？

あかり：そうですね…たぶんお昼頃には着けると思いますがよ？…迷わなければ…

ウルオイ：…あかり…まさか…？

あかり：ふふっ…冗談です？…大丈夫ですよ！私よくお買い物に行ってますから

ウルオイ：よかった…しかし…もっとポケモンが飛び出して来るかと思えば…それでも無いんだな…まだ一回もポケモンに会ってないぞ？

あかり：この森のポケモンさん達は優しい方が多いですから…ここちから仕掛けない限り襲ってきませんよ？

ウルオイ：なるほど…ならばのんびり行くとしますかねー

あかり：そうですねー…あつこの先においしい木の実が生ってるどころがあるんですよ！…行きましょう！

ウルオイ：そうだな…休憩がてらゆっくりしますか！

二人は談笑しながら先へと向かう

\*\*\*\*\*

研究所から旅立った二人は森の綺麗な湖に着いた

ウルオイ：おお！…きれいな湖だな

あかり：ですよね！…たまにみんなでピクニックに来るんですよ？…じゃあ私は木の実採って来ますから…休憩しておいてください！…行つてきま〜す！？

ウルオイ：おっおお？…気をつけるよー！…さて…飲み物でも作りますかね〜？

ウルオイがバックからインスタントのココアとコップを取り出す

ウルオイ：さーて…この水は飲めるかなーつと…

軽く舐めてみて大丈夫とわかる

ウルオイ：お！…大丈夫そうだ…むしろかなりおいしい水だな…体力全回復しそう…？

ウルオイが水をなべに入れ火にかココアの蓋を開けコップに粉末を入れる

ウルオイ：ん〜？良い香り、だいぶ香りが強いんだな  
そう良いながらココアの準備をしていると何かが近づく音が聞こえる

ウルオイ：あかり…か？…あかり…？…帰って来たのか…？…誰だ？？

ウルオイが見ると…そこにはあかりではなく傷ついたワシボンと巫女服のラルトスがいてこつちを見ていた

ウルオイ：…えーっと？…ん？？

ウルオイが二人に尋ねようとした時遠くからまたこちらに近づく音がする

ラルトス：…？…！！

ラルトスがワシボンの手をぎゅっと握る

ワシボン：…しかたない…おいその人間！俺達をかくまえ？

ウルオイ：へ？かくまえって…どこにも…ってそうだ？

バックから二つのモンスターボールを取り出す

ウルオイ：一旦この中に！

ワシボン：っ？…しかたない！…メイ！

ラルトス（メイ）：こくり

二匹がモンスターボールに入りウルオイがバックに入れる……するとふたりの黒ずくめの男がヘルガーを連れやってくる

男1：おい…こっちにポケモンが来なかったか？

男2：ワシボンと妙な格好のラルトスだ

ウルオイ：はあ…それなら少し前にきて…あっちに行きましたか？？

ウルオイがあっちを指差す

男1：ヘルガー？

ヘルガー：…ココアの匂が強すぎてわからない…方角は合ってそ  
うだ

男2：ちっ…急ごう…早く見つけなくては

二人組とヘルガーが走って去っていく

ウルオイ：…ふう？…ココア様様だな…さすがサザナギ印？…っ  
と二人を出してやるか…

バックからボールを取り出し…逃がすボタンを押す

ワシボン：…かくまってくれたことには感謝する…では

ボールから出てきたワシボンがそう言ってさっさと二人はどこかへ  
行こうとする

ウルオイ：まあ…待て？…行くのはいいが怪我がヒドイ…まずは治  
療してからだ！

ワシボン：そんな必要は…つつ？

ラルトス：？……？

ワシボンが膝を付き辛そうにし…ラルトスが心配そうに介抱する

ウルオイ：ほら…何があったかは聴かんが…今は休め…その状態では自分すらも守れないぞ？

ワシボン：くっ…くそ！…メイ？…しかたない…メイがいいなら俺もいい…

ラルトスがワシボンに念話でなにかを伝える…するとワシボンも折れた

ウルオイ：よし…決まりだな…僕はウルオイ…ただの訳有り新人トレーナーだ？

ワシボン：…俺はグレン…こっちはメイ…メイはしゃべれないからよろしく頼む…

メイ：ペコリ

ウルオイ：わかった？…さて…もう少しであかりも帰ってくるだろうし…簡単な治療をしよう…メイはそのココア飲んでいいよ…今回のMVPだから感謝するようには？

メイ：こくん…くびくび？

グレン：ぶん…って染みる???

ウルオイ：我慢しなさい…男だろ？…消毒してるだけだよ…

グレン：くっ！…ぷるぷる？

ウルオイ：…（あっ…弄り2号発見）？

グレン：なんだ？？

ウルオイ：なにも？…あかりまだかな？…あっ…あかりってのは僕の仲間だ…可愛いヒトカゲだよ？？

グレン：んなこと知らん…って染みる？

ウルオイ：はい…我慢してねー？

グレン：…お前、後で、泣かす

ウルオイ：なんで？治療してるだけだろ？！

メイ：…ニコニコ？

その後もあかりが帰ってくるまで騒がしい治療が続いた…ウルオイは後で軽く殴られた…治療の間メイが笑えてたから軽くだそうだ…でも痛かったそうだ？

「旅立ちの朝…そして遭遇」(後書き)

新キャラは2人

ワシボンのグレンとラルトスのメイ

この物語のキーマンでもあります

ではでは次回お楽しみに

累計アクセス1000突破?

ありがとうございます?

これからもよろしくお願いします?

「家族とポケモンセンター」(前書き)

ども？

今回はほのぼの+ギャグです

んじゃどうぞ？

「家族とポケモンセンター」

あかり：はー…黒服さんですか…私は見なかったですね？

ウルオイ：それはよかった…まあ…今はご飯だ！ご飯？！

あれから騒いだもんだから…ご飯にしようとうルオイが提案し半ば強引にグレン達を同席させた

グレン：なんで俺らまで…？

ウルオイ：だって二人ともお腹減ってそうだったから…それに腹が減っては何とやら…ってね？…うん！やはりあかりのご飯は上手い！

あかり：ありがとうございます？！

メイ：ぱく！…ぱく？！

あかり：メイちゃん…そんなに急いで食べなくても…おいしい？

メイ：こくこく！…ここに？

あかり：よかった…えっとグレン君はどうかな？

グレン：…上手い？…

ウルオイ：おー…良く言えました…えらいえらい？

ウルオイがグレンの頭を撫でる

グレン：……やめろ！……子ども扱いするな？

グレンが真つ赤になってウルオイの手を払い退ける

ウルオイ：おつと……すまん最近あかりによくするもんだから……つい？

あかり：（いいなあ）

ウルオイ：あかり？？

あかり：ひゃい？……何ですか！？……おかわりですか？

ウルオイ：うん……落ち着け……美味しいご飯ありがとつ？！

ウルオイがあかりの頭を撫でる

あかり：あ……えへへ？

グレン：………？

メイ：？……（グレン？）

グレン：っ！……何でもない………メイ……何だその目は？？

メイ：……（何も？）

ウルオイ：よし……よかったらメイも撫でられてみるか？？

グレン：おい…

グレンが刃のような紅い羽をウルオイに突きつける

ウルオイ：ははは？… すいません調子乗りました？

メイ：（グレン…大丈夫よ？）

グレン：だが？

メイ：（この人は…大丈夫…名前の通り…本当に大きく優しい人…  
運命…かも？）

グレン：……？

ウルオイ：？…何だ？どうした？…腹痛か？？

グレン：コイツで…いいのか？

メイ：（うん！…何より（あなたが）楽しそう）…ててて

メイがウルオイの前に行き頭を突き出す

ウルオイ：おっ！…いいのか？？

グレン：…メイが許可した？

ウルオイ：さわった瞬間ズドン！…は嫌だよ？？

グレン：誰がするか？

メイ：…うずうず？

ウルオイ：おっとすまん…待たせた…よしよし？

メイ：…？

メイが気持ち良さそうに目を細める…その目から涙が落ちる？

ウルオイ：…?!

グレン：おい？

ウルオイ：誤解だ！何もしていない！

グレン：ふん…あかり…すまんがメイをあその木陰に…

あかり：え？…うん！…メイちゃん…行こう？

メイ：…こくり

あかりがメイを連れ少し離れた木陰に行く

ウルオイ：…死刑執行？？

グレン：何の話だ…はあ…メイもなんだってこんな男を…??

ウルオイ：…？…何だ？…話が見えないんだが…？

グレン：簡単に言うと…俺らもお前についていく…ってことだ

ウルオイ：……いいのか？

グレン：メイが決めたことだ

ウルオイ：いや…グレン…キミに訊いたんだ？

グレン：？……分からない…俺はメイを支え…守る…それだけだ

ウルオイ：なるほど…ならグレンに認められるよにゆっくり頑張りますか！

グレン：ゆっくり？

ウルオイ：そう！…ゆっくり…のんびり…楽しく！…な？？

ウルオイがグレンに笑いかける

グレン：……ふっ？

ウルオイ：あっ今笑ったろ！？

グレン：？ちっ違う！

ウルオイ：そんな奴はこうだー？！

ウルオイがグレンの頭をおもいつきり撫でる

グレン：やっやめ…やーめーろー？

ウルオイ：はははははははははははは？…おーい！あかりー？これからグレンとメイは僕達の家族だ？！

グレン：かつ勝手に…いい加減…手をはなせー??

グレンが真っ赤になってあばれてる…振りほどける手を離さずに

メイ：（グレン…楽しそう）？

あかり：メイちゃん大丈夫？

メイ：こくり…カキカキ

メイが地面に文字を書く

あかり：こーねーかーらーよーろーしーく？…うん！…よろしくね？メイちゃん！

メイ：ニコ …カキカキ

あかり：よーろーしーくーおーねーいーちゃん？…メイちゃん??

あかりがメイに抱きつく

メイ…？

あかり：ウルオイさん…私お姉ちゃんになりましたー!?

ウルオイ：グレンお兄ちゃんもいるぞ!?

グレン：誰がグレンお兄ちゃんだ？？

こうして新しくグレンとメイを家族に加え…彼らの旅は続く…また  
一つ運命の歯車が動く…先に待つは希望か絶望か…彼らはまだ知ら  
ない

グレン：で…お前らはどこにいくつもりだ？

ウルオイ：ん？…まずはこの先の町に行って…ポケモンセンターで  
休憩だな！

あかり：そうですね…今からですと

…夕方までには着けますね

メイ：？

あかり：メイちゃん楽しい？

メイ：こくこく？

あかり：よかったー…あつそうだ！…町に着いたら先にフレンドリ  
ーショップ寄っていいですか？

ウルオイ：うん？…べつにいいが…何買うんだ？

あかり：後でのお楽しみです？！

ウルオイ達が談笑しながら次の町へと向かう

\*\*\*\*\*

ウルオイ：着いたー！？

夕暮れ時…ウルオイ達が次ぎの町ラクヨウタウンに到着した

ウルオイ：みんな大丈夫か？

グレン：俺は大丈夫だ

あかり：私は少し疲れました？？

メイ：？？？（ウチモ）

ウルオイ：お疲れ様…あかり…どうする？ショップ行くか？

あかり：行きます？！

ウルオイ：あはは？…ほらお金…これで買っておいで

あかり：はい！…メイちゃん一緒に行こう！

メイ：こくり…（グレンは？）

グレン：俺はいい…おい人間…俺は辺りを散歩してくる

グレンがウルオイに言い…離れる

ウルオイ：2人共全然元気じゃないか？…あつ皆！僕はポケセンに居るからな…さて…部屋借りに行きますか？

あかり達はシヨップにグレンは散歩にウルオイはポケセンに向かった  
ーシヨップー

店員：らっしやいませえー

メイ：？？>あかりの腕を掴む<

あかり：大丈夫だよ…さてどこかな？

メイ：？>ついていく<

あかりがメモ帳のブースにつく

あかり：可愛い？いろいろあるね…メイちゃんこの中から好きな選んでいいよ！

メイ：？…>あかりをじつと見る<

あかり：ん？…あつお金は大丈夫だよ？ウルオイさんからもらったし…それに家族だから遠慮はいらないよ？

メイ：…こくん？>にっこり笑う<

あかり：うん！…さて！…どれがいいかな？

メイ：…？

二人は楽しそうにメモ帳を選ぶ

グレン：……………

グレンが離れた場所から二人を見ている

グレン：なるほど…そうゆう事か…（またひとつ…仕事が減ったか…）いや…メイが笑ってる…それが大切だ…俺は…メイの剣…それだけだ

グレンがつぶやき…姿を消す

ポケモンセンター 宿泊部屋

ウルオイ：ほう…これがポケセンの宿泊部屋か…ゲームでは無かったから心配したが…そらあるわな？…ふむ…暇だ…何するかね…

バックの中からライブキャスターが鳴る

ウルオイ：おっ？…電話か？…もしもし？

サザナギ：こんばんは…ウルオイ君？

ライブキャスターに相手の顔が写し出される

ウルオイ：こんばんは…（流石ハイテク）どうかしましたか？

サザナギ：ん？……どうしてるかな…と思ってるね？

ウルオイ：はあ…まあ家族が2人増えて今は4人で旅してます…

サザナギ：まあ？…さっそくあげたモンスターボールが役にたったみたいね〜

ウルオイ：まあ…そうですね？…僕は出来るだけボールを投げてゲツトはしたくないので…

サザナギ：あら！…投げずにゲツト？…大変な道を選んだわね〜…でももう2人も増えたなら大丈夫かしらね〜

ウルオイ：大変な道ってことはわかってます…でも図鑑完成が目的ではないので…ゆっくりのんびり行きますよ

サザナギ：ふふっ？…道草し過ぎはダメよ〜？…みんなが帰って来たらまた連絡ちょうだいね〜リザちゃんがウズウズしてるから？

ウルオイ：はい…んじゃ切りますね？

サザナギ：は〜い…まっただね〜

映像が消える

ウルオイ：大変な道か〜…でも僕にはそれしかないしな…よし！…腹が減った…みんなまだかな〜

ポケモンセンターエントランス

あかり：いいのが見つかって良かったね？

メイ：こくこく？

グレン：来たか…

エントランスで3人が合流する

メイ：（グレン？）

あかり：あっグレン君…もうお散歩はおわり？

グレン：ああ…俺らの部屋は135だ…アイツはもう部屋にいる

あかり：は～い！…じゃ～みんなで行きましょう！

メイ：こくり（グレン？…何かあった？）

グレン：いつも通りだ

あかり：…？

3人はウルオイの待つ部屋へと向かったあかり：ただいま帰りまし  
た～？

メイ：（ただいま）？

グレン：…ふん

ウルオイ：おっ…やっと帰ってきたか…おかえり

あかり：「ここが今日泊まる部屋ですか…なんといつか…」じんまり  
???

ウルオイ：まっ無料で貸し出ししているからね…寝れるだけでもあ  
りがたいよ？

メイ：くいくい>あかりの服を引っ張る<

あかり：あっそうだね！…今回ショップで買ったものは…メイちゃ  
んどうぞ?!

メイ：『メモ帳を買ってもらいました』>メモ帳の文字を見せる<？

ウルオイ：おお！…なるほど…これならメイとも会話ができるな？！

あかり：でしょう！…しかもこれはメイちゃんの念を文字にするか  
ら凄く便利なんです？！

メイ：『ほんとに良いものが見つかりました』？

ウルオイ：ほー…メイ…よかったな！

ウルオイがメイの頭を撫でる

メイ：『うん！』？

グレン：（これでいい）…メイ…よかったな…

メイ：こくり？

ウルオイ：さて…みんな揃ったしご飯にしますか！…下にレストランがあるからそこに行こう！

メイ：『レストラン！』？

あかり：メイちゃん嬉しい？

メイ：『とつても！…ずっと夢でした』？

ウルオイ：はは！…今日は旅の始まりと新しい家族の歓迎会だ！好きなもん選んで良いぞ！？

メイ・あかり：…！…早くレストランに行こう！『すぐに行く！』？

グレン：その言葉後悔させてやる

ウルオイ：わーお…ええい！漢に一言はない！レストランに出発！

あかり：おー！？

メイ：『おー？』？

グレン：ふん

ポケモンセンターレストラン

メイ・あかり：キラキラ？

二人が目をキラキラさせている

ウルオイ：二人とも…ほらこっちに座るよ？

メイ・あかり：こくこく！？

ウルオイ：ははは…よし！みんな選んでいいぞ！

あかり：えーと…これおいしそう…あっこれも…迷う！

メイ：『お姉ちゃん…これなに？』

あかり：ん？ハンバーグだよ？…お肉を丸めて焼いたやつで…画像見たほうが早いかな？

あかりがメニューの表示ボタンを押すとハンバーグの映像がメニューの上に出てくる

メイ：…！！

あかり：…どうかな？

メイ：『食べたい！…ウルオイさん！ウチこれ！』

ウルオイ：ああ！…わかった！…他は…

あかり：うん！私はこのたっぷりこってりステーキをお願いします！？

ウルオイ：おう！……ってお前さん！これ食いきれるのか！？？

グレン：俺はフォアグラとキャビアのソテーの松茸セットを

ウルオイ：なに！？…何でそんな高級食材セットがここに存在するんだ！？

あかり：あつデザートはートルコライス！

ウルオイ：まだ食うんかい！ってそれはデザートじゃない！

メイ：『シュークリームがいい』？

ウルオイ：シュークリームな！わかった！？

グレン：俺はデザートは…黄金ドリアンパフエで

ウルオイ：おい…それデザートで一番高いやつじゃねーか！？

グレン：漢に

あかり：…二言は？

メイ：『ない？』

ウルオイ：ええい！もういい！僕も食うぞ?!？

こうして周りの客が少し迷惑そうだったがみんなが笑える楽しい食事になった…ウルオイは後で少し泣いたという

あかり：それでね！新しい家族がね！

ただいまライブキャスターでサザナギ博士達と電話中  
メイ：『よろしくお願いいたします？』

グレン：お見知りおきを

あかり：でね？

夜の談笑はしばらく続いた

ウルオイ：サザナギ博士大明神様…なにとぞ…

サザナギ：頑張つて？

ウルオイ：オーマイガー？

「家族とポケモンセンター」(後書き)

やっとやりたかったギャグパートが出来た？

次回はもっと冒険らしい？事するかも

では次回お楽しみに

感想・訂正お待ちしてます？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4064u/>

---

ポケモン旅遊歩

2011年10月9日10時25分発行